

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2018～2023

課題番号：18KT0030

研究課題名(和文)音楽の継承プロセスと非認知能力の拡張に関する人類学的研究：音、身体、情動

研究課題名(英文)Anthropological Study on the Process of Musical Inheritance and the Expansion of Non-cognitive abilities: Sounds, Bodies and Emotions

研究代表者

小西 公大(KONISHI, KODAI)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：30609996

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：世界各地で芸能・音楽研究を蓄積してきたメンバーたちの「音楽の継承」にまつわる新旧データを統合し、最先端の音楽研究(ミュージッキング概念の登場以降に生み出された多様な実験的音楽理論)との接合と批判的検証を進めてきた。オラリティ領域、主に身体性・官能/情動へと直接的な影響力を及ぼす「コトとしての音楽」が、「継承」「教育」という文脈でどのように伝達され、人々をつなぎ合わせ、場の形成を行なっていくのかについての論考『サウンド・アッサンブラージュの人類学』を著書として出版することができた。ここでは「音楽の力」をつなぐ力、伝える力、生み出す力の3つに因数分解しながら、音楽という場の力学の民族誌を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日常的な音楽経験や、音楽教育の文脈において、モノ化されてきた「音楽」を開き、我々の豊かな身体性と情動性がいかに世界とつながり合いながら構成されているのかという「場の力」として音楽を捉え直すための論理的な基盤を創り上げることができた。知識やスキルと評価の世界で拘泥しがちな音楽経験・教育がもたらす弊害を可視化し、また単純な消費対象としての音楽を見直し、さらに音楽を操る人間という「人間中心主義」を超えたところにあるオーラルな力の源泉として音楽を捉え直すことは、翻って私たちの世界の見方そのものを揺るがすことになる。一般書を通じて、多くの方々へ音楽経験の持つ深淵な力への関心を誘うことができた。

研究成果の概要(英文)：We have integrated new and old data related to "musical inheritance" from members who have accumulated performing arts and music research in various parts of the world, and have proceeded to join and critically examine them with cutting-edge music research (various experimental music theories created since the emergence of the concept of "musicing"). We have published a book entitled "Anthropology of Sound Assemblage," which discusses how "music as an experience," which has a direct influence on orality, mainly physicality, sensuality, and emotion, is transmitted in the context of "inheritance" and "education," and connects people together to form a place. The book is a collection of essays about the power of music to connect and connect people and to shape places. Here, we presented an ethnography of the dynamics of the place of music, factorizing the "power of music" into three types of power: the power to connect, the power to transmit, and the power to create.

研究分野：社会人類学、南アジア地域研究

キーワード：音楽の継承 身体性 情動 コトとしての音楽 ミュージッキング サウンド・アッサンブラージュ オラリティ 身

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、音楽の継承・伝承を通じた非認知能力の獲得のプロセスを明らかにするための民族誌的探求を目指すものであった。

本研究のメンバーは、これまで音楽が創造される場の、モノやテクノロジーを含む複数のアクターによる相互関係の重要性に着目し、その「場」の持つ環境設定やそれを支える文脈を分析しつつ、生起される具体的な音楽経験の多様なあり方を、通文化的な比較を通じて研究してきた。一方で、こうした研究を継続するなかで大きな問題となってきたのは、音楽そのものを支える技術やアーキテクチャー、動機の強度が通時的に反復され再構成されていく様態、すなわち広い意味での「継承」の問題に疑問を持つこととなった。つまり、音楽経験の場は、確かに偶発的で一回性の伴う即興的空間として構築されるが、それを可能とするアクターや環境が世代を超えて継続的な力を持ちつつ、かつローカリティを構成していることの重要性を理解するに至った。また、こうした音楽の継承のプロセスにおいて決定的に重要なのは、アクター個人個人に生じる、深い他者との情動や身体の交感を基盤とした自己充足感や想像/創造性であり、それらが既存のものとはズラしながら新たな音楽経験を生産していく、その様態であることを認識した。本研究が音楽教育との連関の中で、それが非認知能力の拡張にいかなる影響をもたらすのかに着目するのは、このような流れにおいてである。

2. 研究の目的

本研究は、世界の様々な音楽の継承プロセスを民族誌データに基づいて比較分析し、音にまつわる実践・経験を介した「学び」の可能性を模索しながら、新たな音楽教育のモデル構築を行うことを目的とした。本研究における「学び」とは、他者との交感(身体・情動の直接的な相互作用)を通じた自律的・創造的な能力(=非認知能力)の拡張プロセスを指す。

特に本研究が注目したのは、近代教育や継承・伝承が加速度的に制度化されていく事態である。音の記符化、器楽技術のマニュアル化、音楽を支えるコスモロジーの教科書化などの現象により、音楽継承の方法は過度にリテラシー領域へと飲み込まれていったかのように思われる。一方で、近年の音楽研究の大きな転換に見られるように(後述)、音楽を直接的な経験と実践という非言語的な相互作用(オラリティ領域)として捉え直す必要性が主張されている。このように、音楽をめぐる状況は、リテラシー領域とオラリティ領域のせめぎ合うアリーナの様相を呈している。本研究では、上記の二つの極(制度化と直接性、リテラシーとオラリティ)の間で揺れ動く音楽の継承プロセスの動態を、世界各地における集約的な参与観察とデータ解析をもとに明らかにし、非認知能力の拡張のための新たな音楽教育モデルを構築することを目指した。

3. 研究の方法

6名の構成員が各自の調査地において参与観察による民族誌的調査を行った。その際、メンバーを(a)音楽継承の場における身体性、(b)音楽が継承される場における情動性、(c)音楽継承と制度化の3つのカテゴリーに分けて、分析をおこなった。また(a)~(c)の研究によって得られた知見をもとに、リテラシー領域とオラリティ領域の接合を目指し、新たな音楽教育モデルの構築を行った。

4. 研究成果

(1) 理論と実践の蓄積、および成果のアウトリーチ

本研究は「音楽の継承」を切り口とし、世界各地における多様な民族誌的データを駆使しながら「学び」の可能性を具体的な音楽教育に落とし込むための理論構築を行う事を目的とした。本年度は各メンバーのもつ既存のデータを提示し合いながら、非認知能力を伸ばす次世代教育への接合の可能性を模索するためのすり合わせ作業及び理論的側面の深化をはかるために研究会や視察、具体的な実践活動を行ってきた。

理論的側面においては、ジョージナ・ボーンの社会的美学と音楽論、シェーファーの「サウンド・エデュケーション」、ラトゥールの社会的実践としての音楽など、多様な音楽理論の批判的検討や、クリストファー・スモールのミュージッキング概念以降の音楽研究の流れを再構築していく過程で、固定化されたモノとしての音楽を解放し、ミュージッキングの主体を主客二元論を

超えたハイブリッドな現象として捉える新たな学びを生み出すプラットフォームを構築するための抜本的な教育改革の必要性を明示してきた。また実践活動においては、東南アジア・南アジアにおける音楽の継承に関する事例報告をワークショップの形で行いながら、技術や表現の広がりとともに社会関係や言語を超えた情動が継承されていくオラリティ領域における学びの契機をアクチュアルなフィールドにて把握していくことの重要性を確認しあつた。

本研究では、特に理論と実践を組み合わせることで「サウンド・アッサンブラージュ」という概念を元にした成果報告としての一般書籍化も成し遂げることができた。また音楽教育学会等における研究発表やオープンなワークショップなどのアウトリーチ活動にも力を注ぐことができ、コロナ禍における研究活動停滞後は多くの業績を残すことができたように思う。

(2) コロナ禍における新たな「音楽」

本研究開始直後の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、我々のフィールドワーカーとしての作業を一切中断させ、文化人類学的方法論を抜本的に見直さざるを得ない状況となった。また、我々が捉えようとしていた「音楽の継承」がもたらす場の力について、具体的な身体を伴った相互作用や情動の交感が不可能になった時に、本研究の遂行自体が危ぶまれることになった。一方で、身体を介さないヴァーチャルな音楽経験の広がり、つまりライブ空間や音楽教育現場が急速にデジタルイズされていく状況下で、そこで生み出される新たな音楽経験と場の力学を考えるための視点を得ることになった。研究会はオンラインで継続的に行われながらも、フィールドに出ることのできない忸怩たる思いが募っていったが、それが翻って音楽経験と創造の場に対する意識の拡張を生み出し、「サウンド・アッサンブラージュ」というウィズコロナ時代に新たに「音楽すること」の意味を根元から考えるための重要な契機になったと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Kodai KONISHI	4. 巻 1
2. 論文標題 "Unwelts" toward Energy: The Conflict against Wind Farm Development at Thar Desert, India	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Yoshida Osamu (ed.), Effect and Further Potentials of Decentralized Development: Final Report	6. 最初と最後の頁 97-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 「これから生きるために「当時の決断」を振り返る」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 内藤 直樹編 『コロナ禍を生きる大学生：留学中のパンデミック経験を語り合う』 昭和堂	6. 最初と最後の頁 pp.176- 214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 「都市文化としての美容産業」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小磯千尋・小松久恵編 『インド文化読本』 丸善出版	6. 最初と最後の頁 141-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西公大	4. 巻 -
2. 論文標題 「アジアにおける文化的コンテンツの再編：アジア的なものはどのように創られてきたのか」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代アジアをつかむ：社会・経済・政治・文化 35のイシュー』	6. 最初と最後の頁 463-473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 12月号
2. 論文標題 「世界を席卷するインド系移民の歴史と現在」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『月刊東亜』	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 74/4
2. 論文標題 「恐怖を分かち合う：焼身自殺者を目撃したあるチベット難民の身振りから」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『中央評論』	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsuya YAMAMOTO	4. 巻 -
2. 論文標題 Commemorating a Self Immolator: a Case Study of Responses to Self Immolation in a Tibetan Society in India in M Matsuo	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nakamura, S and Funahashi, K (eds.), Life, Illness, and Death in Contemporary South Asia. Routledge	6. 最初と最後の頁 228-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 「倫理価値と安全保障の創造：東北タイ芸能集団の技術的選択の事例から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『物質文化』	6. 最初と最後の頁 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石上則子	4. 巻 48
2. 論文標題 「児童・生徒の学びを通して見るPDCAのあり方」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『音楽鑑賞教育』公益財団法人音楽鑑賞新興財団	6. 最初と最後の頁 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石上則子	4. 巻 48
2. 論文標題 「題材の目標をとらえた授業設計：学びがつながり深まる授業を目指して」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『音楽鑑賞教育』公益財団法人音楽鑑賞新興財団	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林史子	4. 巻 14
2. 論文標題 「和太鼓演奏における口唱歌とリズムの感受に関する考察：神着木遣太鼓と三宅太鼓の事例から」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『芸術研究』玉川大学学術学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐本英規	4. 巻 -
2. 論文標題 「音楽：海を越えていく『音楽の小道』」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂	6. 最初と最後の頁 173-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐本英規	4. 巻 -
2. 論文標題 「音楽的要素と芸術的側面」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財：池田の柴祭り調査報告書』鹿児島県肝属郡錦江町教育委員会	6. 最初と最後の頁 92-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 ワールドミュージックと東南アジア	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地球の音楽	6. 最初と最後の頁 82-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大門碧	4. 巻 -
2. 論文標題 権威をかわして音と戯れる：ウガンダのショー・パフォーマンス「カリオキ」のプログラム作成をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 野澤豊一・川瀬慈編『音楽の未明からの思考：ミュージッキングを超えて』ARTES PUBLISHING	6. 最初と最後の頁 195-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 国民国家の暴力が生み出した地位を生きる人々	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代アジアを掴む	6. 最初と最後の頁 89-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 運命的瞬間が人を歌手にする	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 官能の人類学	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 33
2. 論文標題 書評論文「古川不可知『シェルパと道の人類学』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 65 - 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西公大	4. 巻 33
2. 論文標題 書評「田中雅一(他編)『インド・剥き出しの世界』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西公大	4. 巻 -
2. 論文標題 「ポップカルチャー：アジア的なものはどのように創られてきたのか」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代アジアをつかむ』	6. 最初と最後の頁 462-474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石上則子	4. 巻 48
2. 論文標題 小学校教科書とオルフ・シュールウェルグ：2020年度採択，小学校教科書第1学年「音楽づくり」の学習から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音と動きの研究	6. 最初と最後の頁 72-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 ラオス中部ラオトゥンのラム歌唱の民族誌：グローバル状況下における五感統合とデジタル化をめぐる身体感覚の現在	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 博士論文（東京外国語大学）	6. 最初と最後の頁 1-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 レヴィ＝ストロースによる人類学的知性への「萌え」の果てに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『萌える人類学者』（東京外国語大学出版会）	6. 最初と最後の頁 248-272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 暴力を目の前にした難民の苦境を考える：インド在住チベット難民と焼身自殺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『インド・剥き出しの世界』（春風社）	6. 最初と最後の頁 415-438
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 下巻
2. 論文標題 芸能から捉えるチベット難民社会のダイナミズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『チベットの歴史と社会』（臨川書店）	6. 最初と最後の頁 52-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsuya YAMAMOTO	4. 巻 -
2. 論文標題 Struggle to Inscribe Individuality: Tibetan Pop Singers in India and Nepal	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Resistant Hybridities: New Narratives of Exiled Tibet	6. 最初と最後の頁 147-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tatsuya YAMAMOTO	4. 巻 -
2. 論文標題 Performer's Two Bodies/ Double Consciousness	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 An Anthropology of Ba（京都大学学術出版会）	6. 最初と最後の頁 124-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 ふさわしいリズムを求めて：チベタン・ポップ歌手のレコーディング過程からみるグローバル化の様相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界を環流する<インド>：グローバリゼーションのなかで変容する南アジア芸能の人類学的研究(青弓社)	6. 最初と最後の頁 186-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐本英規	4. 巻 85(1)
2. 論文標題 共に住まうことの困難と期待: ソロモン諸島アレアレの村落における共住と歓待	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『文化人類学』	6. 最初と最後の頁 73-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐本英規	4. 巻 45(3)
2. 論文標題 過程の中の竹製パンパイプと間に合わせのレコーディング・スタジオ: ソロモン諸島アレアレの在来楽器をめぐり音楽的媒介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国立民族学博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 471-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hidenori SAMOTO	4. 巻 36
2. 論文標題 Assembling Bamboo Panpipes in the Blended Life: Musical Mediation in a Village of 'Are 'are, Solomon Islands	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 People and Culture in Oceania	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大門碧	4. 巻 -
2. 論文標題 踊りはすぐそこに: 首都ルサカにおける音楽と身体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ザンビアを知るための55章』 (明石書店)	6. 最初と最後の頁 266-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西公大	4. 巻 -
2. 論文標題 萌えるパフォーマンスアーツ：インドの「伝統芸能」からみるモダニティとエロティシズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『萌える人類学者』（東京外国語大学出版会）	6. 最初と最後の頁 80-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小西公大	4. 巻 -
2. 論文標題 偶発性を生み出すフィールド教育：学びが生まれる余白と異種混濁性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人類学者たちのフィールド教育 - 自己変容に向けた学びのデザイン』（ナカニシヤ出版）	6. 最初と最後の頁 67-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 難民として生きる：国籍との抜き差しならぬ関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『マルチグラフト：人類学的感性を移植する』集広舎	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 文化：人びとが日々生きている多様性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ようこそ南アジア世界へ』昭和堂	6. 最初と最後の頁 219-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 南アジアと中国	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ようこそ南アジア世界へ』 昭和堂	6. 最初と最後の頁 283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kodai Konishi	4. 巻 -
2. 論文標題 The Right to Sacredness: Politics Surrounding Wind Power Development in the Thar Desert	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Law and Democracy in Contemporary India: Constitution, Contact Zone, and Performing Rights, Palgrave Macmillan.	6. 最初と最後の頁 191-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西公大・齋藤真智子	4. 巻 Vol.71
2. 論文標題 交渉 が生み出す創発性：佐渡島宿根木集落における「観光現象」のフィールドから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東京学芸大学紀要：人文社会科学系II』	6. 最初と最後の頁 59-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西公大	4. 巻 -
2. 論文標題 砂漠に吹く新しい教育の風：ダルバリー自由ヴァルドルフ校の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『多文化共生社会に生きる：グローバル時代の多様性・人権・教育』	6. 最初と最後の頁 287-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石上則子	4. 巻 2019年6月号
2. 論文標題 私の集中する授業づくり：音楽の時間で「集中」する子どもを育てるために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育音楽 小学校版	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 イサーン文化復興の再考：文化評価制度の確立と東北タイ・モーラム芸能者の関係性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 185-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/tak.56.2_185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本達也	4. 巻 -
2. 論文標題 フィールドでの関わり、立体化する政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡本圭史、神本秀爾編『ラウンド・アバウト：フィールドワークという交差点』集広舎	6. 最初と最後の頁 60-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriko Ishigami	4. 巻 Vol. 6
2. 論文標題 Fostering Children's Musical Creativity based on a Simple Rhythm Pattern	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Creativity in Music Education	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計46件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 飯田玲子
2. 発表標題 「まねぶ（模倣）」の可能性から見た身体動作の継承：視線を事例に
3. 学会等名 日本音楽教育学会 第53回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小西公大
2. 発表標題 「溶解する臨床：文化人類学とフィールド教育の可能性」
3. 学会等名 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」キックオフシンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小西公大
2. 発表標題 音楽とホリスティックな世界の接続 - インド北西部タール沙漠における「民俗音楽」の継承をめぐって
3. 学会等名 日本音楽教育学会 第53回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 「モーラムの公教育への浸透と性的表現に対する反発：制度化の行き詰まりと広がり背景に」
3. 学会等名 日本音楽教育学会第53回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 「ラオス中部ラオトゥンのラム歌唱の民族誌：グローバル状況下における五感統合とデジタル化をめぐる身体感覚の現在」
3. 学会等名 東洋音楽学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石上則子
2. 発表標題 「教科横断的な学びで広がる音楽科教育：小学校音楽科と図画工作の連携による授業実践とICT活用を通して」
3. 学会等名 日本音楽教育学会第53回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林史子
2. 発表標題 「『三宅太鼓』が人々を魅了するのは何故か：両面横打ちと口唱歌が学習者に与える効果に着目して」
3. 学会等名 日本音楽教育学会第53回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 「『ガダルカナルより南』で朝枝利男がみたもの：ソロモン諸島レンネル・ペロナに関する紀行およびモノグラフと朝枝コレクションの照応」
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究：第4回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大門碧
2. 発表標題 「歌を口バクすることの可能性：東アフリカ、ウガンダでの実践を事例に」
3. 学会等名 日本音楽教育学会第53回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大門碧
2. 発表標題 「ウガンダの舞台空間に見る音と身体」
3. 学会等名 多文化教育研究プロジェクト連続セミナー「多文化共生としての舞台芸術」（主催：東京外国語大学言語文化学部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 ラオス中部ラオトゥンのラム歌唱の民族誌：グローバル状況下にみる五感統合とデジタル化をめぐる身体感覚の現在
3. 学会等名 日本文化人類学会関東地区博士論文・修士論文発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 北タイ(ランナー)の伝統舞踊：ジャオ・ダーラーラッサミー妃殿下の創作舞踊と生涯から
3. 学会等名 東京外国語大学市民講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 タイの音楽と舞踊：多民族の国家統合と師への礼拝
3. 学会等名 東京外国語大学市民講座
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 社会的なものへの共鳴器：ソロモン諸島アレアレにおける竹製パンパイプをめぐる音楽知
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 ソロモン諸島アレアレの村で人々の《胸が打つ》もの：檳榔・煙草・竹製パンパイプ
3. 学会等名 日本文化人類学会課題研究懇談会「嗜好品の文化人類学」2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 竹製パンパイプを「音楽のように」組み立てる：ソロモン諸島アレアレからのぞむ音楽のグローバリゼーション
3. 学会等名 日本オセアニア学会 2021年度関東地区研究例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮内康乃
2. 発表標題 未来の「まつり」を創造する
3. 学会等名 IAMAS岐阜クリエイション工房2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮内康乃
2. 発表標題 声明の会・千年の聲 聲明コンサート「祈りの声」
3. 学会等名 高知県立美術館
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮内康乃
2. 発表標題 DIY MUSIC for kids “ Make Some Noise ” 「音をつくってみようワークショップ」
3. 学会等名 Maker Faire Tokyo 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石上則子
2. 発表標題 ICTで広がる音楽授業の可能性：小西貴弘氏の講演を受けて
3. 学会等名 日本オルフ音楽教育研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石上則子
2. 発表標題 プロジェクト研究「小・中学校の連携を踏まえた音楽科授業の実践研究 : 音楽づくり・創作と他の領域・分野との関連を図った学びの探究を通して
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小西公大
2. 発表標題 偶発性を生み出すフィールドワーク教育：学びが生まれる余白と異種混交性
3. 学会等名 日本文化人類学会 第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石上則子（他）
2. 発表標題 プロジェクト研究「小・中学校の連携を踏まえた音楽科授業の実践研究 : 音楽づくり・創作における学びの探究」
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮内康乃
2. 発表標題 「ガムランの練習曲を作る」
3. 学会等名 高知県立美術館/文化庁・高知ライブエール・プロジェクト
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuno MIYAUCHI
2. 発表標題 Creator's Cradle Circuit Work In Progress
3. 学会等名 Karakoa/国際交流基金アジアセンター/The Creators' Cradle Circuit (3Cs)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本達也
2. 発表標題 インド市民権を求めて：アトム化するボーダナート在住チベット難民の生きる道
3. 学会等名 2019年度フィールドネット・ラウンジ企画
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsuya Yamamoto
2. 発表標題 Commemorating a Self-immolator: A Case Study of Responses to Self-immolation in a Tibetan Refugee Society in India
3. 学会等名 The 11th INDAS South-Asia International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tasuya Yamamoto
2. 発表標題 Negotiating Citizenship: a Case Study of Tibetan refugees in India and Nepal
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Yamamoto
2. 発表標題 Citizenship under the dual legal system: a case study of Tibetan refugees in India and Nepal
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asian Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kodai Konishi
2. 発表標題 For whom the Development tolls?: The Conflict Arises on Accessibility to Sacredness in Wind farm at Thar Desert, India
3. 学会等名 the 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS 11) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 作りかけの楽器、壊れた電子調律器、間に合わせの録音スタジオ：ソロモン諸島アレアレの竹製パンパイプをめぐる在来の技法とテクノロジーの出会い
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学際的研究」第8回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 歓待としての共住：ソロモン諸島マライタ島南部におけるポスト・マーシナ・ルール時代の集落をめぐる
3. 学会等名 2019年度日本オセアニア学会関東地区例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 ソーシャル・メディア活用にみる倫理的価値創造：東北タイ芸能集団の保証システムの事例から
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Midori Daimon
2. 発表標題 Music does not Stop: An Analysis of Development Process of a Modern Dance Show "Karioki" in Kampala, Uganda (Ethnographic Encounters on African Youth and Families: Norms, Education, Employment, and Marginalization)
3. 学会等名 IUEAS 2019 Inter-Congress "World Solidarities"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石上則子
2. 発表標題 オルフ・シュールウェルグと伝統音楽
3. 学会等名 日本オルフ音楽教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮内康乃
2. 発表標題 東南アジアリサーチ体験談
3. 学会等名 音楽詩劇研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮内康乃
2. 発表標題 声でつながり響きあうアジア：宮内康乃が捉えた東南アジアと高知の芸能のつながり
3. 学会等名 地域文化計画、高知県立美術館主催研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小西公大
2. 発表標題 意志を紡ぐフィールド：インド・タール沙漠の周縁からみる開発の未来
3. 学会等名 海外学術調査フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小西公大・門田岳久
2. 発表標題 予測＝期待をめぐるエスノグラフィの可能性と有限性：宮本常一写真プロジェクトの自己分析から
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田晶子
2. 発表標題 SNSで育まれる東北タイの芸能集団の保証システム
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石上則子(他)
2. 発表標題 プロジェクト研究「学校と社会を結ぶ音楽教育」：TASモデルの有効性と課題
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石上則子(他)
2. 発表標題 共同企画「子どもの学びが見える学習指導案を考える」：実際の音楽科学習指導案を通して
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石上則子
2. 発表標題 選んだ音から広がる音楽の世界
3. 学会等名 日本オルフ音楽教育
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 謎としての文化/文化概念の相対化：概念の創造的曖昧性を中心に
3. 学会等名 音楽芸術マネジメント学会10周年記念第11回冬の研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 共に住まうことの困難と希望：現代ソロモン諸島アレアレにおける歓待
3. 学会等名 日本文化人類学会課題研究懇談会「歓待の人類学」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐本英規
2. 発表標題 メラネシア在来音楽をめぐる出会いと媒介の文化人類学的研究：グローバル化時代のソロモン諸島マライタ島南部アレアレにおける竹製パンパイプ合奏を事例として
3. 学会等名 日本文化人類学会関東地区研究懇談会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 小西 公大、大門 碧、飯田 玲子、小林 史子、山本 達也、石上 則子、平田 晶子、宮内 康乃、佐本 英規	4. 発行年 2024年
2. 出版社 うつ堂	5. 総ページ数 312
3. 書名 『そして私も音楽になった：サウンド・アッサンプラージュの人類学』	

1. 著者名 平田晶子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 368
3. 書名 『ラオス山地民とラム歌謡：内戦を生き抜いた宗教・芸能実践の民族誌』	

1. 著者名 平田晶子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 292
3. 書名 山口裕之（編集）、橋本雄一（編集）『地球の音楽』	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 82
3. 書名 『小学生のおんがく』から『小学生の音楽』の全6冊	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 152
3. 書名 みんなで深める小学校音楽あそび70	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 28
3. 書名 「音楽づくり・創作」の授業デザイン：新しい評価規準に関する追加資料	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 53
3. 書名 小学校音楽科における授業再開後の指導事例集	

1. 著者名 小西公大・平田晶子（他2名）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 356
3. 書名 萌える人類学者 The Anthropologist as Homo Affectus	

1. 著者名 田中雅一・石井美保・山本達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 450
3. 書名 インド・剥き出しの世界	

1. 著者名 佐本英規	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 232
3. 書名 森の中のレコーディング・スタジオ：混淆する民族音楽と周縁からのグローバリゼーション	

1. 著者名 箕輪在弘・二文字屋脩・小西公大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 188
3. 書名 人類学者たちのフィールド教育：自己変容に向けた学びのデザイン	

1. 著者名 石上則子（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 150
3. 書名 みんなで深める小学校音楽あそび70	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 28
3. 書名 「音楽づくり・創作」の授業デザイン：新しい評価規準に関する追加資料	

1. 著者名 石上則子（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 78
3. 書名 小学校音楽科における授業再開後の指導事例集音楽の授業づくり	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 221
3. 書名 小学校音楽科教育法	

1. 著者名 Tatsuya Yamamoto and Tomotaki Ueda (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 222
3. 書名 Law and democracy in Contemporary India: Constitution, Contact Zone, and Performing Rights	

1. 著者名 石上則子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教育芸術社	5. 総ページ数 32
3. 書名 移行期における音楽科の指導：音楽づくりの指導におけるポイント	

1. 著者名 石上則子（初等科音楽教育研究会編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 音楽之友社	5. 総ページ数 255
3. 書名 初等科音楽教育法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

コロナ禍の状況の中では、多様な研究者を招聘しながらオンライン勉強会・研究会を開催。文化人類学会、International Conference of Asian Studies(ICAS)、音楽教育学会などをはじめ、分科会や個人発表などで研究成果を発表する機会が多かった。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 玲子 (IIDA REIKO) (10757587)	金沢大学・GS教育系・講師 (13301)	
研究分担者	山本 達也 (YAMAMOTO TATSUYA) (70598656)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	佐本 英規 (SAMOTO HIDENORI) (60822749)	筑波大学・人文社会系・助教 (12102)	
研究分担者	平田 晶子 (HIRATA AKIKO) (70769372)	東洋大学・アジア文化研究所・客員研究員 (32663)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	石上 則子 (ISHIGAMI NORIKO)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大門 碧 (DAIMON MIDORI)		
研究協力者	宮内 康乃 (MIYAUCHI YASUNO)		
研究協力者	小林 史子 (KOBAYASHI FUMIKO)	玉川大学・非常勤講師 (32639)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関